東筑摩塩尻 PTA 連合会研修会　議事録

平成 29 年 8 月 26 日（土）　洗馬小学校

司会者　坂井小　宮川洋平

記録者　広陵中　僧都寿幸

第３分科会「学校・地域の連携活動」　提案；聖南中学校　山越 PTA 会長

信州型コミュニティスクール「きささげ応援団」の取り組みについて

「地域で育てる学校」であるといった意識を持ち、自分では何が出来るのか考え学校と一緒になって、「質実剛健」な生徒の育成の為に地域の教育力で力いっぱい応援する。

そのために、次の３つの内容に取り組む。

・学校教育目標や重点目標、課題等、学校運営について理解し合う場を持つこと。

・学校支援ボランティア（応援団）の年間計画の作成、調整を行う。

・よりよい学校運営を目指し、学校支援のあり方を探っていく。

委員長（団長）の言葉

「できるときに、できる人が、できること」をやっていきましょう。全ては質実剛健な生徒を願って。

討議テーマ；PTA として、コミュニティスクールの係わり方

・PTA に負担になっていることがあれば、ボランティアが引き受けてくれるとありがたい。

・どういう学校にしたいかという理念の下、「それぞれの責任を」「大人の義務を果たす」「情報を共有しながら意見を言い、子供を守る」

・子供が卒業しても、花壇作り、草取りに関わってくれる。

・お任せでなく、皆が中に入って経験することが大切。

・少子化に伴い、学校統合するのが良いのか？　地域や PTA のやり方の違いがある。

・ふれあい講座、料理・工作を達人が教えてくれる。

・保育園から中学校までの PTA で一同に音楽界を実施している。

・（両小野中）CS が浸透しているが、毎年の引継ぎで変化が少ない。後から入った人がわかりにくい CS になってしまっている。

・中学校では、CS の強化支援が難しい。中学生が地域へ出て活動する方向はどうか？

・部活に地域ボランティアが関わってくれている。

・CS への PTA の関わりが解からない。

・村内の社会科見学は、子供と、地域の方との交流がメインになっている。

・PTA と地域の方とのパイプが少ない。PTA が単年度で替わることが原因。

・昔に比べて、子供と地域の人の交流は、増えている。

・PTA・CS の情報発信を拡大させることで、すこしずつでも良いので活動を広めていく。

・保護者世代は、時間の確保が難しい。聖南中の発表にあった団長の言葉を広め、実施すべき。

・CS は一般の保護者は知らない。広める工夫を。

・やってみなくては始まらない、地域の方々は、外へ出てもまた地元に戻ってきてほしいと考えている。

・昔はもっと地域が子供を育てていた。それが無くなり意図的にやるようになってきた。

・もっと学校に入って子供たちの支援をしていく事が重要。保護者が関わることで子供たちの可能性を伸ばしていくことが出来る。
・聖南中のどっこい清掃交流。昔の清掃は気合が入っていたことを伝えたい。

助言者；片丘小　下條校長先生
・この分科会を開催し、情報交流できたことがひとつの成果である。
・気楽に学校に入ってもらい、学校を知ってもらう事が大切。
・育てたい子供像を共有する。
・地域に愛着を持って育てたい。

以上